去の一つの非常に幼稚な観念を見直した。すなわち社会主義の社会は自然に良性運営となるという観念である。現在、無情的にわれわれに告げたのは、よく運営しなければ、社会主義も常に中性運営と模糊運営に陥っていく。さらに、不注意だと、悪性運営と奇形運営に陥って崩壊の縁に至ってしまう。十年の動乱はわれわれに深刻な授業をしてくれた。社会の良性運営と協調発展は、自動的に、自然的に到来するものではないと分かれば、中国の社会良性運営と協調発展の条件とメカニズムを研究する必要性も明らかである。とりわけ、その条件を創出し、そのメカニズムに沿って努力する。したがって、この角度から見てみると、1978年の改革開放の偉大な歴史功績は、中国を悪性運営と奇形運営に陥ることを終わらせたことにある。中性運営と模糊発展の状況に引き上げ、良性運営と協調発展に転換することが現実的、可能であることを示してくれた。

社会運営論の重要概念「社会運営の条件」と「社会運営のメカニズム」について、われわれは比較的深く掘り下げ、体系的な検討を行った。社会運営の条件について、まず海外の社会学界の先輩たちの研究を回顧しながら、かれらの社会要素、社会条件と機能主義という三つの角度からの見解を考察した。先行研究の合理的要素を吸収した上で、社会運営条件を理論的な説明を行った。さらに、社会運営の人口的条件、環境資源の条件、経済的条件、文化的条件と社会心理的条件について説明した。最後、特に中国の社会運営にもたらす特殊な影響を与える内外の二つの条件を研究した。すなわち変容期の変容効果と後発国家の後発効果である。社会運営メカニズムについて、われわれは、まず理論的に「社会運営のメカニズム」という概念を論述した上で、社会運営のメカニズムを体系的に分析した。さらに、社会運営の五つの重要なメカニズムである動力メカニズム、整合メカニズム、激励メカニズム、制御メカニズムと保障メカニズムを説明した。条件とメカニズムの論述は、中国現代化の過程と改革開放の実際を以って、皆が関心をいだいている問題と結びつく。以上の検討を経て、社会運営論は構造的に合理化と成熟の方向に一歩踏み出した。社会運営論のもっとも代表的な著作は『社会運行導論——有中国特色的社会学基本理論的一種探索』である。

五、

社会変容と社会営為の核心は社会構造である。社会構造は、一つの社会の社会地位およびその相互関係の制度化とモデル化の体系を指す。社会構造形成の原因は、社会学では利益構造と呼ぶが、経済学では社会資源の分配方式と呼ぶわけである。したがって、社会学には社会構造を研究する三つの角度がある。すなわち社会関係の角度：社会地位およびその相互関係の現状と発展趨勢を研究する。社会制度の角度：主に社会地位と社会関係を相対的に固定する二次的な社会制度を対象とする。利益構造の角度：社会構造はなぜこうなるのか、そうではないのかという研究立場である。われわれは変容中の中国大陸社会構造の研究について、主に以上の三つの方面から展開した。その理由は、今年6月13日に立命館大学で開いた学術報告会にて「現在中国大陸社会構造変容のいくつかの問題について」という報告を行った。日本語訳は『立命館産業社会論集』に掲載の予定である（興味があればご参考まで）。ここで、中国の利益構造の健全化と問題および話題になっている中国社会貧富格差の問題に限って紹介したい。中国の主な二次的な制度については、たとえば身分制（階級身分、戸籍身分、就業身分、所有制身分）、行政制、単位制がある。主な社会関係には、貧富関係（貧困者集団と裕福者集団との関係）を除いて、工農関係（労働者集団と農民集団との関係）、脳体関係（脳力労働者と体力労働者との関係）、幹衆関係（管理者と被管理者との関係）、都市に入った農民工と都市住民との関係、これらの社会変容中の変化趨勢と直面している問題などは、時間的な関係で割愛する。

(一) 中国社会利益構造の健全化と問題[13]

住民収入の角度から分析してみると、中国大陸の利益分配は最近の20年内は、否定の否定の過程を経て、極端な平均主義を特徴とした非合理より

13）原注⑪：『轉型中的中国社会和中国社会的轉型』第一編の参照